

第13回網走市選択する未来会議発言要旨（令和4年11月16日（水））

～第2期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の達成状況について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

事務局から説明がございましたが、皆様のほうから、ご意見・ご質問等があれば挙手いただきたいと思いますが、何かございませんか。

いかがですか。

○委員

質問や意見ではなく、感想になってしまうかもしれませんが、全体的にコロナの影響が非常に大きいと思います。市内の飲食店なども冷え切っているように見えますので、飲食や販売の業種ではないですが、そういった職に携わっている方からすると、コロナは一刻も早く収束に向かっていかなければならないのだなという気がしました。

●事務局

令和2年度、3年度は非常に大きく新型コロナウイルスの影響を受けたところです。人が集まる、または移動するといった事象、取り組みは、全滅とまでは言いませんが、目標を達成するに全く至らない状況となりました。そうはいってもブレーキを踏むばかりではなく、令和4年度につきましては、網走マラソンが3年ぶりにリアルで開催されましたし、マスクや手洗いなどもすっかり習慣づいて、少しずつ人の動きは戻ってきていると感じるところです。

令和2年度、3年度はまん延防止など公の制約もありましたので、イベントなどの開催はかなわない実態がありましたが、令和4年度以降は少しずつそのあたりの取り組みを進めていっているところです。

○委員

令和4年度の数値というのは、コロナの影響を受けた時期と比べてよい数値になっていそうなのでしょうか。

●事務局

そう感じていますし、そうしていきたいという状況です。今の指標はコロナ禍以前に設定したもののなので、コロナ禍であることを前提としたときに果たして上向いているものなのか、下回っているものなのか、成果が見えにくいところではありますが、一刻も早く収束をし、正しい判断ができる状況に戻ってほしいと願っているところです。

○委員

目標値については、届いたもの届いていないものがありますが、数字が見えるようにしていくことは重要なので、やはり市民の感覚、何が良くなったとか、住みやすくなったなどという実感を持つこと、アンケートの未実施などで検証ができていない部分をやっていくだと

か、市民の実感に訴えるようなことが必要だと思います。また、広報を積極的に行うことも、例えば、省エネルギー推進のクールチョイスやエコドライブの賛同者などは、機会があれば個人で参加してくれるのではないかと思いますので、広報活動を活発に行えば（数値が）伸びるものもあるかと思います。数値目標の設定もかなり練られており、達成しているものが多いこともよいことだと思います。

○委員

行政に伺うべきか迷いますが、9 ページの「どこバス」の取り組みなのですが、ライフラインということで、実証実験の進み具合はどのようになっているのでしょうか。

●事務局

どこバスの実証実験は、試行錯誤を繰り返しながら3年目になりました。今年に関しては料金改定やエリア拡大などを行っています。認知度も高まってきているようで、学生の日常的な利用も多く、担当の商工労働課からも非常に良い調子であると伺っております。路線バスと併せて、新しい地域の足として確立できるものだと感じています。

○委員

KPI は余裕で達成できているということですよ、設定自体が相当甘かったのではないのでしょうか。どこバスについては、市の KPI は低いと思っています。

僕自身はもっと乗るという風に思っていて、今後の展望としては、現在はまだ並行して走っている路線バスもありまして、路線バスは、朝夕の通勤通学の時間帯が一番混雑するので置き換えることが不可能ですが、それ以外の時間はどこバスに置き換えるということの大前提に始めた事業です。既存の路線バスを利用されている方もいますので、一気にではなく3年かけて段階的に減らしてきて、さらにこれから先減らさねばならない路線もまだありまして、今後（路線バスを）減らしていったときに、現在は5台体制ですが吸収できるのかという問題があります。

どこバスは、AI で最短ルートを計算して走ることができますが、まだ（ルート割り出しなどに）100%を解放しきっていないところもありますので、余力がある状態です。そのため、行政として公共交通にどう取り組むかというところで、姿勢としては、私は物足りない、もっと高い KPI を設定したほうが良いと思います。

○委員

路線を減らしていく時には、この目標設定というのは維持していったほうが良いのでしょうか。

○委員

もっとすそ野を広げていくイメージだと思います。既存の路線バスの形態だと、なかなかバス停自体が遠く、また、人のいない停留所も必ず通らなければならないシステムです。

ところが、どこバスだと、人のいないところは経由せず、行きたいところに行けるので、外に出るのが億劫だった人々を外に出そうという取り組みも含まれています。どこバスの導入により、バス利用者の数が増えると考えており、目標値はさらに増やしていかなければならないものだと思います。

○委員

お隣の小清水町に「アグリハートセンター フェリーチェ」という施設ができました。こちらはものづくりの加工の施設だけではなく、農業実習ですとか、ものづくりと人材育成の両方ができる施設として考えられています。温泉を使った温室栽培など、多岐にわたってやっております、施設は町民以外の人も使うことができますのですが、利用者設定がさらに垣根をなくすようになっています。

網走にも、みんぐるがありますが、思うように利用できないこともあり、使いにくい部分があります。いろいろな事情があることと思いますが、新しい施設ではなく、こうした既存の施設についてももう少し充実していただけると市民としてありがたいです。

●事務局

みんぐるは現在、市民などが気軽に食品加工を体験できる施設として稼働しておりますが、お話にあった小清水町の施設のように、様々な機能を併せ持つものではありません。実習や人材育成など、それぞれの所管が単独で動いてもなかなかうまく回らないと思いますので、どういったことができるのか、庁内で情報を共有してまいります。

温室栽培のお話もありましたが、網走でも、能取港町にありますバイオマス発電所が、1号機のほか2号機は10月17日に稼働したところで、今後3号機も年内に完成して試験運転が始まるという状況です。そこも、発電に伴って生じる熱を活用して何かできないかといった話もあるようですので、活用の可能性も含めて、どういったあり方が良いのか、利用者のご意見など伺うことが必要と思うところです。

○委員

すべてのものに当てはまることだと思いますが、すべての項目に関連する民間企業があるはずであるが、行政の取り組みは実態とずれている部分が多々あると感じています。目標設定やプロセスを含めて、民間の知恵を吸い上げる仕組みづくりが重要だと思います。市内にはたくさんの知恵を持った方がおり、無料で知恵を借りることができますので、ぜひご検討いただきたいです。

●事務局

おっしゃる通りで、つい国や道の動向や方向性を気にしてしまいがちですが、私たちの周りには、専門の知見を持った企業がございますので、仕組みといいますか、関連する事業者や業界と日々、意見交換などのコミュニケーションをとりながら、肌感覚でそういったアイディアをいただいているよう、意を用いて取り組んでまいりたいと思います。

○委員

そのような場を設けられるよう、農大に戦略センターがありますので、是非ご活用していただきたいと思います。コロナでなかなか我々も発信できなかった面もありますが、この中の問い合わせの件数等にもつながっていくと思いますので、まずはご相談いただきたいと思います。

○委員

1ページ目の「地場産品の販路拡大に向けた支援」について、令和2年度から令和3年度

にかけて1社増えたのはどんな企業でしょうか。また、「網走港の活用」について、輸出入のトン数が、基準値である39万トンから44万トンへと5万トンも増加しておりますが、具体的にどのような手法でここまでの伸びたのでしょうか。

●事務局

1社増えた企業は水産加工会社です。

貨物の取り扱い量は移入と移出の両方の数値でして、移入は主に石炭、移出は主に小麦です。増加のための手法というよりは、網走港で貨物を扱う船の発着回数、規模に依るところ大きいもので、期間を区切って集計した際には波のあるものでございます。

●議長

そのほか学生目線として、就職についてなどはいかがでしょう。こういうことをすれば伸びるだろうというのはありますでしょうか。

○委員

この会議の前に、3年生の身近な学生にこの資料を見せてみました。私の周りの学生がそうだったかもしれませんが、たくさん取り組みがあることはわかるけども、これだけの取り組みがあっても知らないという状況でした。そのため、先ほどもお話がありましたが、もっと広報活動に力を入れてもよいのではないかと思います。

○委員

水産業もそうですが、つくづく農大生がまちの大きな力になっていると感じます。街に出ると居酒屋さんのアルバイトを大学生がやっていたりと、企業とのつながりはあるのですが、網走市にとってもかかわっているのも、市民とのつながりももう少しまくいけばいいなと思っています。私もスポーツジムを利用していた際に学生と話す機会もありましたけども、網走市民にも大学生のつながり、プロ野球をしょっちゅう輩出している、農大があるんだ、学生が地域に深くかかわっているんだということを知ってもらいたいですね。10/25・26には農大のジビエラーメンを出展されると聞いていますので、そういったところで知るだとか、市民の側から学生へのアプローチがあるとよいと思います。そこから就職などにつながっていくということが重要なかもしれません。

○委員

私自身が子育て世代なので、子どもの学習に関することが気になります。コロナについては子どもへも影響があると感じておりますが、逆に、リモートなど、学び方を選べるようになったとも言えると思いますが、子供達は学校に行かなくても学習できる状況になってきたことで、学校に行く必要性が薄れてきていると感じます。それによって不登校も増えているのだと思います。その数をどう改善していくかや、学び以外の魅力を作るなど、学校へ行くメリットを作ることが重要ではないかと感じています。

私の子どもも、普通の学校からN高校（学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校／通信制高校）へ転入しましたが、そのほうが学びがいがあるとのことなので、やはり学習以外の魅力を作ることが対面、リアルの学びには必要だと思います。

○委員

的外れかもしれませんが、コロナ禍での売り上げを伸ばすということで1ページ目に販路拡大、消費拡大と載っておりますが、消費者の立場で考えると、せっかく地元でとれるお魚、農産物がありますが、新鮮でおいしいものを近場で安く買える、高くてもおいしいものはどこでも買えますが安く買えるところがなかなかないのです。なので、安く手に入る場所があれば販売も伸びるのではないかと思います。

○委員

直売所などもありますが、高齢化が深刻です。農家人口も減ってきており、1戸当たりの畑の面積が増えて細かなところで手が回らない部分もあります。

現場としては、野菜を中心に作っていた時期があり、根ものが多かったのですが、大根はなくなり、ゴボウも50ha以上あったのが今では数haになりました。唯一長芋はまだありますが、面積が増えると手が足りなくなってきており、減ってきています。何とか歯止めをかけようと頑張っていますが、いつかはなくなってしまうのではないかと心配しています。

直売所もありますが、出店する人が減っています。新規で入られた方が頑張ってはいますが少しじり貧の状態です。

例えば、もち麦については、物流などに課題がありまして、ここでは面積の数字的にはクリアしていますが、R4年度は0で、実際にはメーカーと仕切り直しで、問題をクリアしなければ継続的にできない状況です。先ほどの移出の関係では、麦などがありますが、その年によってちょっと不作になると何万トンという数字が変わります。農業に関しては数値目標を設定することが難しいと感じています。

国では、この辺の主力のビートを減らし、芋を増やせと言っていますが、では種芋はどこにあるのかといった状況で、現場とのマッチングがなかなかうまくいっていない。ここ数年の作付けについてはガラッと変わってくるのではないかと、例えば豆類はどんどん増えるなど、作物の経済学は今後が読めなくなってきています。産地化などの目標は何となくわかりやすく、達成できそうですが、数値化となると、どうしてこんな数字になっちゃうのかなと。地産地消がなかなか今は難しい状況です。

●議長

数値目標の設定当初はコロナや世界情勢がこのようなことになる状況は想定していなかったもので、随時年に1度、皆さんと状況を共有し、その情報を市民の方に周知をしていくということも重要となってくると思います。

何かお気づきの点などがありましたら、随時事務局へお問い合わせいただければと思います。委員の皆様ご意見ありがとうございました。本日の会議は以上で終了させていただきます。

(以上)